

研修会報告

「日本のGrand Strategy: カギを握るのはインド洋ではなくユーラシア」

講演者: Hudson Institute 森安建 Senior Fellow

研修担当理事: 清水 梨江子 / 内田 文平



2026年9月10日(木)、ワシントン日本商工会はHudson研究所 Senior Fellowの森安建氏をお招きし、「日本のGrand Strategy: カギを握るのはインド洋ではなくユーラシア」と題する研修会を開催しました。

講師を務めて下さった森安氏は日本経済新聞において国内外の要職を歴任され、ワシントン、カイロ、北京をはじめ、世界の主要な地域で国際政治・経済の最前線を取材されてきました。本年4月からはHudson Instituteにおいて、米中関係を軸に、ユーラシアの地政学、そして日本が取るべき戦略について研究・発信を続けておられます。

今回の研修会では、米国の対外関与を抑制する動きや、中国の中長期的な戦略について説明がありました。米国では、過去の中東での軍事介入への反省等を背景に、「リストレナー(抑制派)」の影響が高まっているとの指摘がありました。中国については、台湾問題に加え、中央アジア・中東等を含むユーラシア全体での経済・エネルギー戦略が重要との見方が示されました。そして日本としても、東アジアだけでなくユーラシア全体を視野に入れた外交・安全保障戦略を検討する必要があるとの提言がありました。日米同盟を基軸としつつ、変化する米国の政策動向を注視し、日本の戦略的重要性を継続的に発信することが重要との示唆を得ました。

研修会後には「今年一番役に立った」という声が会場のあちらこちらから聞こえました。お忙しい中、貴重なお話しをお聞かせ下さった森安氏に改めて厚く御礼申し上げます。

商工会では今後も会員の皆様にとって有益な機会となる研修会を企画・運営して参りたいと思いますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。



以上